

図書だより

石川県立松任高等学校図書室
平成26(2014)年2月発行

～ 獺の祭 ～

寒い日が続いますが、皆さん風邪などひいてないですか？

さて、2月の季語は“獺（かわうそ）の祭り”です。思わず首をかしげてしまう言葉ですが、かわうその何をして“祭り”というのか調べてみると、かわうそは獲った魚を食べる前に並べるのだそうで、それがお供えをしているように見えるから、とのこと。

そこで本当にそんな習性があるのか『ポプラディア』や『世界動物大図鑑』などで調べたのですが、それについては書かれておらず、①イタチの仲間で世界中に12種類ほどいる、②そのいずれもが環境破壊などで絶滅危惧種に指定されている、ということがわかりました。かわうその現状は冬の寒さよりも厳しいようです。

「wikipedia」を見てみたら、なんと石川県羽咋郡や鹿島郡では“かわそ”、“かぶそ”などと呼ばれて妖怪視されていたという記載が！なんでも人に化けて人間と相撲を取ったり、いたずらを仕掛けているそうです。また、北陸地方や和歌山、四国ではかわうそ=河童の一種と見られていたとまで書かれています。かわうそは泳ぎが得意なので、水から上がった時のぬらりとした様子が河童を思わせたのかなあ、と推測します。



左の絵は江戸時代の画家・鳥山石燕が描いた妖怪・獺。かわうそってもっとかわいい顔だと思ったけど……。
(wikipediaより引用)

作家・畠中恵さんの人気作『しゃばけ』シリーズ（図書室にありますよ～）にも妖怪版のかわうそが出てきます。こちらのかわうそは綺麗な着物を着た可愛らしい女の子です。

東野圭吾でウィンタースポーツを読もう！

今やその名を知らない人はいない推理作家・東野圭吾ですが、彼がウィンタースポーツ愛好家で、それらを題材にした作品も多く発表していることを知っていますか？テレビで観るのとはまた違ったウィンタースポーツの魅力が見えてくるかもしれません。

『ちゃれんじ？』

東野圭吾、44歳にしてスノーボードに挑戦！案の定、転びまくりのゲレンデデビュー。だが楽しい！どんどんのめりこんでいき、雪を求めて東奔西走するどたばたエッセイ。

『鳥人計画』

有望な若手ジャンプ選手が飛行の直後に突然死んだ。警察は毒殺と断定。将来を期待されていた彼はなぜ殺されたのか。

『カッコウの卵は誰のもの』

スキーコーチの紺田は、トップスキーヤーに成長した娘・風美と自分の間に血のつながりがないことを知る。苦悩する紺田の元に風美の大会出場を妨害する脅迫状が届く。



雪が積もっていても、森の中を歩き回るのがソローの日課。なじみの木々を見ることはもちろん、時には思いがけない出会いもあります。たとえばうたた寝をするフクロウとか……。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。